

早川由樹看護師が第16回茨城放射線腫瘍研究会にて優秀演題賞を受賞

2018年11月10日（土）、第16回茨城放射線腫瘍研究会にて、早川由樹看護師が発表を行った「腔内照射時疼痛管理プログラム下における患者の不安と抑うつの評価」が優秀演題賞を受賞しました。

茨城放射線腫瘍研究会は茨城県内の放射線治療の発展を目的に放射線治療に従事する医師や看護師、技師等で組織されるもので、第16回大会は、“「多職種連携」患者を照らすいろんな光”をテーマに、水戸三の丸ホテルで開催されました。

今後も県内の放射線治療の発展に向け、大学附属病院ならではの高度な医療の提供とともに、県内放射線腫瘍医、医療従事者との連携強化を行ってまいります。



上段左から、名取看護師長、早川看護師、櫻井教授、鈴木看護師
下段左から、鮎澤看護師、兼子看護師、北島看護師